



# いずみ

No.52

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

## 自作自選 22



《SNOWFLAKE》

國松 希根太

(2 ページに「作者の言葉」)

## 自作自選 22 作者の言葉

<SNOWFLAKE>は雪の結晶が水面に浸る瞬間を彫刻で表現した。本来、結晶であれば肉眼で見えるか見えないかのミクロの世界であるが、人よりも大きな氷柱と6つの雪片で構成することにより、その世界に入り込むような演出を心がけた。温度によって固体から液体、気体に変化する水の形には昔から興味があった。固体である結晶が水面に接した瞬間の溶けて無くなってしまうという儚さは特別な時間なのである。

(國松 希根太)

タイトル：「SNOWFLAKE」

制作年：2013年

素材：木（シナノキ）にアクリル  
絵具とアクリル板、鉄

サイズ：W255×D400×H400 cm

所蔵：作者蔵

写真撮影：中 優樹

## 連載 宮の森の四季 22

### 本郷新記念札幌彫刻美術館

#### “街角の凹み”展

学芸員 樋泉 綾子

記念館の庭には、本郷新の愛した白樺の樹が植えられています。冬のあいだ寒風に枝を震わせていた彼らも、春の訪れとともに一気に若葉をつけ、日に日に緑を濃くしています。本郷は、北国の長く厳しい冬に耐え、春を迎えてあふれ出すこうした生命のエネルギーを、《泉の像》の伸びやかな踊り子の姿に託しました。

今年2月、《泉の像》の西側の地下に新設された大通交流拠点地下広場に、第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞《凹みスタディ-琴似川 北12条西20丁目-》が設置されました。作者の谷口頭一郎氏は、都市の街路や壁の亀裂・破損などを「凹み（へこみ）」と呼び、その輪郭どおり切り抜いた樹脂の板を折りたたんで造形する彫刻作品を手がけてきました。街の片隅で見過ごされている存在に光を当て、「美」を見出す仕事です。新しい公共空間で、鮮やかな黄色の彫刻は地中から顔を出した若芽のように佇んでいます。この夏当館で開催する「谷口頭一郎展」（7月11日～9月28日）で、谷口さんのユニークな仕事にぜひご注目ください。



## 市民の夢をかなえた美術博物館

苫小牧市美術博物館 嘱託館長 荒川 忠宏

美術館の建設は、市民の長年の夢でした。苫小牧市では、そうした市民の声に応えようと、苫小牧市のまちづくりの指針となる基本構想や総合計画のなかで、度々ふれられていましたが、膨大な費用がかかることから建設には至っていませんでした。こうした状況が大きく進展したのは、平成20年度に策定された苫小牧市総合計画「基本構想・第5次基本計画」の中で、美術館の新設という、これまでの考え方を、既存施設を活用する施策に方向転換したことです。これを受けて教育委員会では、平成20年7月に美術館設置検討委員会を設け、美術館として活用が可能な既存施設の比較検討を進め、博物館が最も適当な施設であるとの結論をまとめるとともに、美術館を設置する際に必要となる要件等について検討を進めました。そうした中、平成21年6月には、美術関係者はもとより教育界、経済界など幅広い市民層による市民団体「苫小牧に美術館を実現する会」が発足し、市民による美術館設置への動きが本格化していきました。実現する会では、美術館の設置を望む市民の思いを伝えるため署名活動に取り組み、14,308筆の署名簿を市長に提出するなど、美術館実現に向けた機運を高めました。平成22年7月には、市民の声を反映した美

術館作りを進めるため、全庁的な検討や各層からの議論が必要との考えから、庁内検討委員会の設置や美術館のあり方やその運営方法を考える市民フォーラム「市民と美術館」を開催しました。さらに、広く市民の意見を聴取するため、平成22年度から平成24年度の3年間にわたり公募した市民によるワークショップ「苫小牧市美術館を考える」を開催し、得られた意見や提言を基に、「苫小牧市美術館基本構想」、「苫小牧市美術館基本計画」、「苫小牧市美術博物館実施計画」を策定しました。こうして、多くの市民並びに関係各位のご尽力により、平成25年7月25日、市民待望の苫小牧市美術博物館が開館しました。

今後は、これまでの「樽前山と勇払原野の自然と文化」をメインテーマにした博物館の基本理念に加えて、美術館基本構想の中に掲げた、「市民に開かれた美術館」「子供たちの感性を育む美術館」「文化芸術活動の拠点としての美術館」という3つの基本理念の実現をめざすため、博物館との複合施設としての特徴を活かしながら、幅広い市民の皆さんが自然・歴史・文化芸術にふれることが出来る事業を実施して参りたいと考えています。

## あるべき保守管理システムを求めて—屋外彫刻調査保存研究会の18年

黒川弘毅（屋外彫刻調査保存研究会事務局長）

屋外彫刻調査保存研究会は、「屋外等に設置された彫刻・記念碑について状態を調査し、その保守と保存方法について研究するとともに、文化的財産としての保存の普及を図ることを目的として」（会則 第2条）、1997年6月に発足しました。美術史研究者や美術館学芸員、保存の専門家、自治体関係者や市民が参加して第1回総会が開催され、初年度の会員数は37名でした。明治に始まる銅像や戦後の「野外彫刻」を研究・調査するとともに屋外での展覧会や設置に積極的に関わってきた柳生不二雄氏が会長に、東京国立文化財研究所で文化財への環境影響を研究してきた門倉武夫氏が副会長に就任しました。会長を批評・美術史の分野から、副会長を保存科学の分野から選出することは会の体制となって現在に続いています。

本研究会は、「研究者や専門家ばかりでなく、自治体関係者や市民ら彫刻の保存に不可欠な人々が参加して、屋外彫刻の保存についての実践的な活動を目指す組織が必要である」との考えを持つ柳生氏と、「芸術から自然科学にまたがる学際的な保存科学の実践は、専門家ばかりではなく研究対象をめぐる様々な分野の人々が関わることで成り立つ」との考えを持つ門倉氏、この2人の「それらをどう残すか」についての思考から始まったと言えます。そして、学問的研究に留まらず彫刻が設置されている地域社会への実践的な働きかけを会の運動として模索する活動方針が明確化されました。

研究会の第1回総会で、次のアピール（要約）が採択されました。「明治期から第二次大戦前までに屋外へ設置された彫刻や記念

碑は、3回の受難を体験しています。1回目は第二次大戦中の金属供出。2回目は終戦後のGHQ主導による軍国主義的銅像等の撤去。3回目は戦後の大気汚染によるダメージの進行です。この最後の消耗を助長しているものに管理体制の不備があります。戦後、50年代から60年代にかけての「野外彫刻展」で盛んに制作された「セメント彫刻」は、その多くは破損や著しい劣化が放置されたままで、現在消滅の危機にさらされています。移設や撤去により行方不明のものが少なくありません。70年代からは多くの自治体で「彫刻のある街づくり事業」が開始され、多量の彫刻が町中に設置されるようになりました。しかし〈芸術作品の保守〉という観点から適切な保守管理を行うシステムを構築するには至っていません。私たちの会は、これらの作品の保守を適切に行ってゆくため、必要な調査を行うとともに、技術上の課題を科学的に研究し、今後のあるべき保守管理のシステムを探り実現をめざします。問題は制度に関わり、純粹に技術、材料だけの研究とはいきません。保存修復家、保存科学者ばかりでなく、美術史家、自治体の管理担当者など、幅広い人たちの会への参加が不可欠です。屋外彫刻の保存に関心を持つすべての人たちに、会への参加が呼びかけられています。」

ここに、研究者や専門家ばかりでなく自治体関係者や市民も参加して、屋外彫刻の保存に向けた実践的活動を行う組織が生まれました。今年で私たちの活動は18年になりますが、研究会創立時の理念は今も変わっていません。

## 旧札幌市真駒内緑小跡施設「まこまる」誕生

永喜多 宗雄(会員)

児童減少に伴い、札幌市の都心4校が資生館小学校に統合され、続いて郊外大規模団地にあった真駒内緑小も平成24年、閉校となった。

将来、この敷地は地下鉄真駒内駅周辺の大規模再開発に繰り込まれ、市民への利便施設等用地として再活用される。今春はそのために備えてアイデアコンペも行われた。仲間2組が応募、私を含む老年組は落選、若手組は見事入選した。

それまでのつなぎの旧校舎利用策の一環として、「子どもを中心とした連携・交流の場」として跡利用施設「まこまる」が4月から誕生した。内容は「ちあふる・みなみ」(南区保育・子育て支援センター)、「Coミドリ(こみどり)」(子供の体験活動の場)、「まちの学校」(札幌市立大学 COC キャンパス)、それと「カフェまこまる」(多世帯交流・地域連携の場)の4施設がオープン。今回未利用の2階は民間業者への貸し付け、3階は不登校対策関連施設が予定されている。

「Coミドリ」の運営は応募6事業者によるコンペとなった。NPO法人さっぽろAMスポーツクラブを代表に、(株)ナックプランニングとNPO法人エコ・モビリティ・サポロの3者連合チームがあこのJICAに僅差で選定され、市から今後5年間の運営管理が委託された。

平成16年、地元(?)の市民4人組(私もその一人)が、閉校となった曙小跡をゲートボール場へと陳情していた地元曙町内会連合会とは真っ向から対立し、市民の運営管理による文化施設として残すよう運動した。市長選を控えていた市も選挙後の新市長の判断へ委ねることとし、上田文雄市長誕生と共に、17年、「あけぼの開明舎」が誕生した。

札幌初の市民の自主的運営管理だ。芸術・芸能・スポーツ団体等への教室・体育館の貸し出し、図書室、喫茶室の開設や運営を4年間続けた。今は「あけぼのアート&コミュニティセンター」となって市民団体が運営している。今回はその際の経験を買われて手伝う羽目に。

今後の「まこまる」はどのように発展してゆくかは不明。市も担当部署には苦勞をしているようだ。今のところ、Coミドリ部分は市民まちづくり局都市計画部地域計画課が担当している。「あけぼの開明舎」の場合も担当部署は二転三転した。

2階の民間への貸室部分はどのように運営



札幌市「まこ×まち 2015 動き出すまこまる」より

され、どのような分野の人々へ貸し出されるのだろうか？

「Coミドリ」開設後、老兵は運営委員には入らず、若い方々の知恵と体力に委ねている。ただ、普段はご近所の主婦の方がボランティア開店している「カフェまこまる」で、日曜日(毎月第1の)のみボランティアでコーヒーなどをいれている。特訓?の成果を味わいに是非ご来店を。

2015 年度友の会総会開く

活動計画案、予算案など原案通り可決

2015-16 年度役員は全員再選



札幌彫刻美術館友の会の2015年度総会は5月17日、札幌市民ホールで開かれ、2014年度活動報告、同監査報告、新年度活動計画案、同予算案など全5議案を原案通り可決した。

総会には〇〇人が出席。橋本信夫会長が「街なかの美を守ろうという私たちのモットーが次第に市民にも広がってきており、今年も来年につながるような活動続けていきたい」と挨拶し、議長には猪股岩生さんを選出した。

14年度活動報告、同決算監査報告を報告通り了承した後、15年度活動計画では全国の彫刻家、大学教授などで組織している学会「屋外彫刻調査保存研究会」（会長・黒川弘毅武蔵野美大教授）が北海道の野外彫刻調査にこの秋、来札する機会をとらえ、同研究会の専門家を交えたフォーラム、講演会などを開催する計画を特別活動として取り組むことにした。さらに、全道野外彫刻カタログ編集作業の推進、従来活動の彫刻学習会、野外彫刻清掃活動などのほか劣化コンクリート彫刻の補修、保全のための対策委員会設置を札幌市に要請する運動の展開などを決めた。総額94万4167円に上る新年度予算案、野外調査特別会計などを原案通り可決した。任期2年の役員は改選期に当たり、退任役員2人をのぞいて全員を再選（別掲）し、閉会した。

2015—16 年度  
札幌彫刻美術館友の会役員

会 長	橋本 信夫
副会長	大内 和
	奥井 登代
幹 事	松原 安男
	長峯 慰子
	猪股 岩生
	細川 房子
	高橋 淑子
	久本由美子
	常田 益代
	岩崎恵美子
	斉藤ミサヲ
	佐藤美保子
	高橋 大作
	丹羽 貴彦
監 査	吉田 修子
	関堂 安司

総会終了後、常田北大名誉教授が講演



総会終了後、会員で北大名誉教授の常田益代さんが「彫刻の運命：蛮行・劣化・そして再生」と題して講演した。

昨年、フランスのクリューニー修道院の発掘調査に参加した研究活動を交えながら、彫刻を含めた建築物などの芸術

作品が長い歴史の中でたどる自然による劣化や破壊、戦争による人為的破壊、その後、発掘、復元によって再生される経緯を「彫刻の運命」として様々な写真を使って紹介、「危機遺産」としての芸術作品の保護を訴えた。

彫刻美術館・芸森美術館  
入館は会員割引制度利用を  
本郷新記念札幌彫刻美術館と  
芸術の森美術館は友の会の会  
員証提示で入館料が無料、割引  
になります。ぜひご利用下さ  
い。

## 彫刻清掃活動再開

新渡戸稲造夫妻顕彰碑とエドウィン・ダン像

今年度の彫刻清掃活動は5月の総会で昨年同様ざっと17カ所で行うことが決まり、早速、5月22日から24日にかけて、新渡戸稲造記念公園と真駒内公園の2カ所で彫刻清掃が行われた。



22日は札幌市中央区にある新渡戸稲造記念公園（南4東4）の〈新渡戸・満里子両先生顕彰碑〉。毎年の清掃で状態も良く、水拭きをし、ワックスをかけると初夏の太陽を浴びて美しく輝いた。公園には部新渡戸稲造記念館の建設が予定されており、清掃後は予定地の草刈りもした。

真駒内公園の彫刻清掃は24日。地下鉄真駒内駅広場にある〈一休みする輪廻〉（丸山隆）、真駒内第一公園の〈牛と少年〉（佐藤忠良）、ダン記念公園

の〈エドウィン・ダン像〉（峯孝）の3点を巡り、草刈りのほか、高さのあるエドウィン・ダン像では高圧洗浄機のノズルを長い棒の先に縛り付けて汚れを洗い流した。ここ数年の作業ですっかり慣れ、手際よく清掃を終了した。

## 彫刻学習部会現地学習

## 苫小牧市美術博物館を見学

友の会の彫刻学習グループは5月21日、新年度第1回の学習



会を開き、苫小牧市美術博物館を見学した。

同館は3年前、それまでの旧博物館に美術館スペースを増築して開館、愛称「あみゅー」の名で市民に親しまれている。見学ツアーは7人が2台の車に分乗して現地入り。訪問時は旭川市彫刻美術館所蔵作品による「日本近現代彫刻名品選」を開催中。同館の細谷学芸員の解説でロダンの〈ジャン・デールの裸体習作〉、本郷新の〈山内壮夫像〉、山内壮夫〈隼の像I〉など50点を鑑賞した。最後に、友の会が今秋、苫小牧方面へのバスツアーを計画していることから元苫小牧職員との事前調査を兼ねた昼食会も開

き、充実した一日を過ごした。

## 会報「いずみ」合本

## 道立図書館・札幌市中央図書館へ寄贈

友の会は会報「いずみ」の創刊号から30号までと、31号から50号までをそれぞれ1冊にまとめた合本をワンセットで道立図書館と札幌市中央図書館に寄贈された。

合本は会員の松原安男さんが特技の製本技術を駆使して昨年と今年にかけて制作したもので、創立以来の友の会の活動の歴史を知る貴重な資料。

図書館の蔵書になることによって、会の実績が広く一般市民にも知られることになり、会のPRにも貢献する。

## 札幌市文化部などと懇談

## 新年度活動計画で協力要請

橋本会長ら友の会役員が5月、札幌市文化部、円山動物園、札幌彫刻美術館をそれぞれ訪問、友の会の本年度活動計画の概要を説明、協力を依頼した。

文化部では野外彫刻の補修・保存対策委の設置、彫刻地図コンテンツの活用を要請、円山動物園では〈よいこつよいこ〉像の修復計画の現状説明を受けた。また、美術館では友の会が今秋、計画している屋外彫刻保存研究会を招いた講演会・シンポジウムへの協力を訴えた。

## 事務局日誌

▼3月19日＝彫刻学習部会(北  
大学術交流会館)▼26日＝会報  
「いずみ」51号発送(エルプラザ)  
▼4月9日＝定例役員会(エルプ  
ラザ)総会準備ほか▼11日＝道  
立図書館、札幌市中央図書館へ  
会報「いずみ」の合本寄贈▼16日  
＝彫刻学習部会(エルプラザ)▼  
5月7日＝新年度活動計画、予算  
案など検討4役会議(エルプラザ)  
▼14日＝定例役員会(エルプラ  
ザ)▼21日＝彫刻学習部会苫小  
牧市美術博物館見学

## 編集後記

▼前号51号の表紙  
「自作自選」は二部黎さんの彫刻  
「釈阿蓮」。台座に置かれた生首  
のような像にいささかギョツとした  
向きもあったかも▼元米海兵隊員  
で退役後、不戦の活動に生涯を  
ささげたアレン・ネルソンさんの像  
だったが、彼の生前の活動をBS  
日本テレビが「9条を抱きしめて－  
元海兵隊員が語る戦争と平和」と  
題して放送した(5月3日)。心を  
打たれる内容だった。同時にこの  
作品を制作した二部さんの思いも  
心にしみた。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.52

2015年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30

011-884-6025

印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」52号 目次

自作自選22 《SNOWFLAKE》	國松希根太	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季22 「〃街角の凹み」展	樋泉綾子	2
風見鶏「市民の夢をかなえた美術博物館」	荒川忠宏	3
寄稿「あるべき保守管理システムを求めて」	黒川弘毅	4
寄稿「旧真駒内緑小施設まこまる誕生」	永喜多宗雄	5
友の会ニュース		6-7
2015年度友の会総会 彫刻清掃活動再開 彫刻学習部会見学会 会報合本図書館へ寄贈 札幌市文化部など訪問		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

#### ■第1回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念

谷口 顕一郎展

7月11日(土)～9月27日(日)

都市の街路や壁などの亀裂や破損を「凹み」と呼び、その形状をもとに彫刻作品を制作する「凹みスタディ」シリーズから、札幌の琴似川をテーマにした作品を中心に構成する。

### 記念館

#### ■ミニコレクション展

本郷新の描いた山々

開催中～10月18日(日)

北海道の山の風景を描いた本郷新の水彩画を紹介する。

▽ミュージアムコンサート(7月)

▽夏休み子ども造形教室(7月)

▽夏の美術館めぐり(9月)

詳細は美術館へお問い合わせください。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>